



札幌市立元町小学校 きこえの教室

令和8年度10・11月号

令和8年9月8日

夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。夏休み中は、ご家族で楽しい時間を過ごされたことと思います。日焼けした子どもたちから、思い出話を聞かせてもらいました。

2学期は、それぞれの学校で大きな行事も行われることと思います。生活リズムや体の調子を整えて、元気に過ごしましょう。



月	火	水	木	金
			1	2
5	6	7	8 道言協 札幌大会	9 道言協 札幌大会
12 スポーツの日	13 元町小土曜参観 振替休業日	14 元町小 開校記念日	15	16
19	20 札幌教 (午後の指導お休み)	21	22	23
26	27	28	29	30

※10月8日・9日は北海道言語障害児教育研究協議会の研究大会のため、指導はお休みです。



2	3 文化の日	4	5	6
9	10	11	12	13
16	17	18	19	20
23 勤労感謝の日	24 元町学習発表の日 振替休業日	25	26	27
30				



☆交通費(公共交通機関)の支給について 市営地下鉄等の公共交通機関を利用して通級している小学生のお子さんは、交通費が札幌市教育委員会より支給されます。支給を希望される保護者の方は、担当者までお知らせください。関係書類の準備ができ次第、順次お渡します(例年11月頃)。必要な証明についてなど、詳細は各担当者から後日お知らせいたします。なお、自家用車・自転車・徒歩など、公共交通機関以外での通級の場合は、支給の対象外となります。



こんにちは、きこえの教室です。今月も、聞こえにくさへの配慮についてお知らせします。参考にいただければ幸いです。

学習発表会の季節です。今回は、学習発表会での配慮についてご紹介します。



※ 裏面をご覧ください

練習は意外と聞きにくいもの

学習発表会の練習では、体育館やホール、視聴覚室、音楽室を使うことが多くなると思います。広い場所での練習は音が反響・拡散しやすい上、話をする先生の位置が遠かったり、場合によっては暗かったりします。楽器の音やBGM、話し声などの、溢れる音から先生の話を選択して聞くことはいつもより難しくなります。また、場所が暗いと周りを見て確認することもできません。学年全体で一つの発表をする場合は、普段聞き慣れない他の学級の先生の話の聞かなければならないこともあります。このように聞き取りにくい中で、子どもたちは先生の指示や出だしのタイミングにかなり神経を張ることになります。



音楽室での器楽の練習は、例えばパートごとに分かれて練習する場合にはいろいろな楽器の音が不意に聞こえてきます。補聴器をつけた子どもにはそれら全ての音が増幅して聞こえてきます。片耳難聴の子どもは良耳側からの音が大きく聞こえるので自分の聞きたい音が聞き取れないことがあります。楽器の音が大きく聞こえている中で先生が話し始めても気付けないことが起こります。

また、発表会を楽しみにしながら、必要以上に緊張してしまう子どもや不安を感じる子どもも少なくありません。先生が話を始める時には一度練習を止めて聞く態勢ができてから話したり、できるだけ静かな時に近づいて話したり、近くの子に伝えてもらったりすることで、子どもは先生が何を話したか内容を理解し安心して参加できると思います。発表の指導や楽器の操作などは身振りも付けて示していただけると伝わりやすいと思います。



子どもの聞こえ方によっては大勢での楽器の音がうるさく感じられたり、演奏を続けていると具合が悪くなったりすることがあります。長時間反響する大きな音の中にいることは、周囲が思う以上にとても疲れることです。静かな場所で少し耳を休ませる時間があると疲れが回復し、練習に参加しやすくなります。子どもの位置は打楽器など大きな音の出る楽器から離れた、挨拶の合図をする人から近い位置（片耳難聴の子どもは聴力が良い耳側）が安心と思いますが、子どもによって音の感じ方は違うので、本人や保護者と大丈夫な場所について直接話し合ってくださいようお願いします。

事前にできる配慮

練習が始まりましたら、器楽や歌の音源をコピーして渡していただけると家で繰り返し聞くことができ、曲をイメージしやすくなります。また、発表の流れのイメージをもてるようにする、子どもの出番が目で見えるように合図を決める、周りの子の顔や動きが見えやすい位置（片耳難聴の子は友だちの声が入りやすい位置）に立てるよう事前に確認しておくなど、始まる前に安心できる態勢をつくっていただけると子どもも意欲的に参加できると思います。

児童公開など他の学級・学年の発表を見る機会がある場合は、大まかに話の内容が分かっていると途中で聞き取れなくてもつながりがイメージしやすくなり楽しむことができると思います。可能でしたら事前に内容や登場人物などをお伝え下さるとありがたいです。

頑張りを認めて

聞こえにくい子どもたちは、歌う時に音程がとれない、発音が不明瞭、イントネーションが不自然など、聞こえにくさから派生する様々な困難を抱えている場合があります。一生懸命練習しても、どうしてもうまくできないことがあります。音程の違いが分からない子や子音の聞き分けが十分にできない子どもに「そうじゃなくてこうだよ」と何度も見本を示しても、子どもには違いが分からず、挫折感を味わったり意欲が低下したりすることが心配されます。本人なりの努力を認め、「やってよかった」「この次も頑張ろう」という気持ちをもてるよう、あたたかく励まして見守っていただけるとありがたいです。どうぞよろしく願います。